2026 年度　(令和 8 年度)　学校評価自己評価表

校番	福山市立　福山中・高等 学校
最終更新日	2026年(令和8年)10月22日

Ⅰ　福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

Ⅱ　自　校

前年度学校関係者評価の主な内容

○生徒の帰属意識は高く、各項目で肯定的評価が高い。
○自分の未来について考え、身に付けた知識・技能を基に自分の進路を択ぶための基盤の育成に力を入れている。
○市立中高との子ども同士のつながりが少なかったので「地域課題解決」で連携できるとよい。

教育理念

ESD（持続可能な開発のための教育）を通じて、生徒一人一人が持つ潜在的な独創性を引き出し、溢れる知性とチャレンジ精神をエネルギーに、持続可能な社会の創造に向けグローカルに活躍する人間を育成する

学校教育目標

旺盛な探究心、豊かな創造力、柔軟な思考力を育み、課題の解決に向け粘り強く挑戦する生徒の育成

育成する力 資質・能力	探究心・創造力・思考力　コミュニケーション力　協働　チャレンジ精神
めざす生徒像	○積極的に地域や社会に働きかけ、課題を発見し、よりよい価値の創造に向け努力する生徒 ○多様性を認め合う寛容さをもち、互いの思い・考えを大切にしながら協働する生徒 ○心身ともに健康で、困難に負けず粘り強く挑戦し続ける生徒

現　状

中学校	高等学校
〈生徒〉 ○「礼儀やマナー、挨拶ができている。」に対する生徒の肯定的評価は96.0%と非常に高いが、列車内及び登下校でのマナーにおいて地域から苦情が寄せられるという事実がある。 ○教科指導、特別活動（学活・生徒会活動・学校行事）、進路指導等、学校の取組に対する生徒、保護者の満足度、帰属意識は高い。「福山中で学んで良かった」（生徒）、「福山中へ子どもを行かせて良かった」（保護者）に対する肯定的評価はそれぞれ95.8%、95.9%である。 ○「生徒会活動（委員会含む）に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的評価は66.2%である。 ○長期欠席者数は、６人である。	（生徒） ○「国公立大学合格延べ数を97人以上とする」に対し88人、「難関国公立大学合格延べ数を10人以上とする」に対し難関大・医歯薬獣医合計７名の合格。 ○国公立大学を第1志望とする生徒の割合は入学時は80%である。 ○「モラルを理解している」との回答99%、「場面に応じた適切な行動がとれる」との回答90.5%であった。 ○「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」との回答93%、部活動加入率は86%であり、「部活動から充実感や達成感を得ている」との回答90%であった。
〈授業〉 ○中学3年生を対象とした全国学力学習状況調査において、昨年度の結果は国語74%、数学83%でいずれも市平均よりも大きく上回る結果となった。また、昨年度から福山市学力状況調査を1・2年生が4月と1月に実施を開始した。1月実施の結果は、国語が1年88.1%、2年が89.9%、数学は1年90.5%、2年85.9%とこちらも全国平均を大きく上回る結果となった。同じ時期実施の比較しかできない調査なので、今年度から分析をしていきたい。 ○昨年度実施した学校評価アンケートでは、「主体的な学びをすすめるような授業の研究・工夫をしている」と感じる生徒が95.8%、「総合的な学習に主体的に取り組んでいる」生徒が92.4%といずれも高評価であり、生徒の主体性の高まりが見られる。また、「主体的な学びを取り入れた授業改善を行っている」教員は90.9%であり、教員の意識も高い水準である。 ○今後も、校内研修の充実を図るとともに、数学、英語での習熟度別のきめ細かな少人数授業、総合的な学習で取り組んでいる探究学習「My探究」、 全教科でのICTを活用した多様な学習、課題の提示の仕方や家庭学習を工夫して行う指導、ＥＳＤの視点を加味した授業研究に取組み、生徒の資質・能力を育成する。	（授業） ○生徒アンケート「授業を理解している」の肯定的回答は４年77%、５年84%、６年82%。教職員アンケート「授業計画表を活用した授業を実践した」の肯定的回答は87%。 ○「資質・能力の向上に努力にしている」84%、ルーブリックの「創」／「思」／「コ」の伸長率は４年2.5→3.2／2.4→3.2／3.0→3.5、５年3.2→3.2／3.3→3.4／3.5→3.7、６年3.5／3.6／3.7。 ○学校評価アンケートのほとんどの項目は肯定的評価が70%以上であり、主体的に授業や探究活動に取組む姿勢がみられる。一方、残り30%の生徒は、授業の理解度が弱く、様々な場面において自己評価も低くなっており、この層の達成感を高める工夫が必要である。

研究	テーマ	グローバル社会・地域社会で活躍する意欲と態度をもった生徒をどう育成するか
	内容等	・「主体的・対話的で深い学び」の実践的授業研究 ・生徒の探究能力・コミュニケーション能力の育成を目的とした実践的授業研究 ・ESDの２観点に基づいた資質・能力を育成するための授業づくり
めざす授業の姿		（１）　「主体的な学び」の過程が実現できている授業 ①　学ぶことに「興味や関心」を持っている。 ②　自己の「キャリア形成の方向性」と関連付けている。 ③　「見通し」を持って「粘り強く」取り組んでいる。 ④　自己の学習活動を「振り返って」次に「つなげて」いる。 （２）　「対話的な学び」の過程が実現できている授業 ①　「生徒同士の協働」を通じ、自己の考えを広げ、深めている。 ②　「教職員や地域の人との対話」を通じ、自己の考えを広げ深めている。 ③　「先哲の考え方を手掛かりに考えること」等を通じ、自己の考えを広げ深めている。 （３）　「深い学び」の過程が実現できている授業 ①　知識を相互に「関連付け」てより深く理解している。 ②　情報を精査して「考えを形成」している。 ③　問題を見いだして「解決策」を考えている。 ④　思いや考えを基に「創造」している。

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山中　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的・基本的な知識、技能を備えた生徒	・生徒に課題設定をさせたり、自主学習を充実させたりする。	・「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」と回答する生徒を85%以上とする。	□アンケートの結果「自分なりに工夫をして課題や学習に取り組んでいる」に対しての肯定的評価が83.3%であった。	３	３	生徒会と連携して工夫した学習方法の共有などを行うことで評価をあげていきたい。					
			継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・知識、技能を活用して、思考・判断・表現させる内容の授業を行う。	・「授業で考えることがおもしろいと感じている」と回答する生徒の割合を85%以上とする。 ・定期考査において活用問題の得点率を60%以上とする。	□アンケートの結果、授業で考えることがおもしろいと感じている」に対しての肯定的評価が87.0%であった。 １学期の活用問題平均正答率は56.9%であった。	４	４	現時点で目標値を超えることができている。これから授業内容が難しくなって行くが、数値を維持できるように授業改善を進めていきたい。					
			継続	高い志を持って、主体的な学びに向かうことができる生徒	・「キャリア・ログ」「ISSP」などの進路に関わる取り組みをすることで、自己をみつめ、将来なりたい自分の姿を考える。	・自分は「進路について考え、目標を見つけようとしている」と答える生徒を85%以上とする。	□アンケートの結果「進路について考え、目標を見つけようとしている」に対しての肯定的評価は86.4%であった。	４	４	引き続き、進路に関わる取組を進め、学期始めと学期終わりにキャリア・ログを書くことで、進路意識を高めていきたい。					
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	・社会人基礎力（礼儀・マナー、自律）を身に付けた生徒 ・充実した学校生活を送るための自己肯定感の高い生徒	・自ら進んで挨拶をする生徒を育成する。	・生徒会活動や委員会活動を通して、毎月挨拶運動を実施する。	□生徒会活動や委員会活動を通して、毎月挨拶運動を行うことができた。	４	３	全校集会を通して、挨拶の現状を伝える。また、目指すべき姿を共有して取り組む。					
					・SNSの使い方など、ネットリテラシーを育む学習会を開催し、全校生徒に取組を行う。	・「あなたはスマートフォン等を使用する際に不適切な使用をしないよう日頃から心がけています。」というアンケート項目の肯定的回答割合を９０%以上とする。	□アンケートの結果「あなたはスマートフォン等を使用する際に不適切な使用をしないよう日頃から心がけています。」に対しての肯定的評価は96.7%であった。	４	４	現時点で目標値を超えることができている。道徳や学活の時間を通して、情報に対しての力をつけていけるように進めていきたい。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山中　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（2月末）					
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒（教科「道徳」を通じて）	・生徒の実態に合わせた教材選び行い、発問を工夫することにより、生徒が自分の問題として「考え、議論する」道徳の授業を行う。	・「道徳の授業を通して、『よりよく生きること』について考えることができた」と回答する生徒の割合を９５%以上とする。	□アンケートの結果「道徳の授業を通して、『よりよく生きること』について考えることができた」に対しての肯定的評価は95%であった。	４	４	引き続き、学校行事や生徒実態に合わせて教材選びを行い、生活と結び付けて考えることができる発問を工夫して授業実践を行っていく。					
				主体的な関わり合いを持ちながら共に伸びる生徒	・学級活動、学校行事や生徒会行事を通して人間関係の構築を促す。	・「あなたは、学び合いやグループ活動において、自分の考えが認められている」と回答する生徒の割合を95%以上とする。	□アンケートの結果「あなたは、学び合いやグループ活動において、自分の考えが認められている」と回答する生徒の割合は98.5%であった。	４	４	行事や授業などの中で生徒同士が関わり合う活動を積極的に行い、生徒が安心して自分の意見が言える人間関係の構築を目指す。					
	国際課題、地域課題について探究し、持続可能な社会の創り手となる生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	地域を知り、地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながる取組を行う（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD３プロジェクト」ルーブリックの①地域課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を40%（前年比）以上とする。	□ルーブリックは、春の実施では①地域課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.20ポイントだった（昨年度2.41ポイント） □３年生は中大連携で福山市立大学へ。２年生では９月末に職場体験学習を実施。１年生は福山の地域で興味・関心を基に探究していく予定。	３	３	My探究ではより一層、また各教科等でも、引き続き校外とつながりを持てるように計画、取組みを行っていく。					
				国際交流や国際課題に取組む意欲と態度を備えた生徒	・総合的な学習の時間や教科の授業等で、浦項大東中学校等との国際交流の内容を共有し、日本と外国の良さや課題について考える機会を持つ（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD３プロジェクト」ルーブリック②国際課題解決力のレベルが上昇した生徒の割合を38%（前年比）以上とする。	□ルーブリックは、春の実施では②国際課題解決力の平均ポイントは5ポイント中、2.12ポイントだった（昨年度2.32ポイント） □５月に浦項大東中学校から訪問交流があり、夏休みにセブ島語学研修には９名が参加。	３	３	海外の学校との交流を今後も継続して実施し、また授業でも日本だけでなく海外の文化等を紹介しながら、世界への興味関心を広げさせる。					
				自尊心を高め、学びを活かしライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	・総合的な学習の時間におけるMy探究や教科の授業等で、社会とつながり自分自身について考える取組を行う（全学年）。	・「福山中・高等学校ESD３プロジェクト」ルーブリックの③在り方生き方探究のレベルが上昇した生徒の割合を21%（前年比）以上とする。	□ルーブリックは、春の実施では③在り方生き方探究の平均ポイントは5ポイント中、2.24ポイントだった（昨年度2.53ポイント） □My探究では、１年生は自分の興味・好きを探究しており、２・３年生は、学校・地域・社会とのつながりを考えて探究している。	３	３	総合的な学習の時間等で行っているキャリア教育を計画的に実施し、先輩や校外とのかかわりを通して、自らの将来に向けたより良い在り方生き方について考えさせる。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山中　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。 【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する。	・小学校と連携する。 ・本校生徒が活躍するオープンスクールを実施する。 ・ホームページ等で、学校生活の様子がわかる情報を保護者、地域に発信する。	・オープンスクールへの参加者数を750人以上、受検倍率3.0～3.3倍を目指す。	□オープンスクールの申し込み数は890名、参加者数は825名と目標値を上回った。（昨年度参加者586名） □事後アンケートの結果は、満足と回答した人は96.4%だった。	４	４	今年度は開催時期を８月後半から８月前半に変更した。参加人数は過去５年間で最多となった。来年度も同時期に開催し、参加状況の推移を見ていく。近隣の小学校とも連携を図りながら、本校に興味を持ってもらえるような広報活動を行っていく。					
						・ホームページの更新回数を月平均8回以上とする。	□学校HPの中学校ページを月平均9.5回更新し、目標を上回った。	４	４	HPの更新を継続するとともに、行事だけでなく、日常の授業や部活動の様子なども積極的に発信していく。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山高等　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	基礎的、基本的な知識、技能を備えた生徒	・基礎基本の定着を意識した授業を行う。	・学校評価アンケート（生徒）「授業では、これまでに学んだことと新たに学ぶ内容とを関連付けて考えています。（広島県質問紙と同等）」を85%以上とする。	□過年度比較で考えると微増。４年は７%増。 4年:153(83.1%)/185 5年:132(78.5%)/168 6年:125(85%)/147	３	３	授業計画の中で、以前に学習した内容の復習を取り入れてもらい、授業内容との関連性を持ちやすくする。					
					・授業計画表などを効果的に活用し自ら進んで勉強に取り組む生徒を育成する。	・学校評価アンケート（生徒）「ふだんから計画を立てて勉強に取り組みます。（広島県質問紙と同等）」を60%以上とする。	□４・５年では、学習計画をうまく立てて学習できていない。 ６年は受験勉強もあり、他学年とは異なる傾向にある。 4年:76(41.1%)/185 5年:47(47.0%)/168 6年:110(74.8%)/147	２	３	授業計画表に学習へのアドバイスを追加したが、学習の仕方（習慣）について指導する。 進路指導部と協議して、学習計画の立て方を研究する。					
			継続	知識、技能を活用して思考、判断、表現することができる生徒	・「３つの学び」（主体的・対話的で深い学び）を意識した授業の工夫を行うことにより、生徒の６つの資質・能力を高める。	・「３つの学び」を意識した授業を行い、ルーブリックの資質・能力の内、「創造力」「思考力」「コミュニケーション力」の伸長率を20%以上とする。	□第1回の各学年の平均値は以下の通り。 ４年：創2.0思2.1コ2.9 ５年：創3.1思3.1コ3.5 ６年：創3.4思3.4コ3.7	３	３	ルーブリックの伸長率は第２回を実施してから比較を行う(12月）。２学期は修学旅行や探究の成果発表の機会があり、さらなる伸長が期待できる。					
			継続	高い志を持って主体的に学びに向かい、時代の変化に対応できる生徒	・ＬＨＲや学年集会、進路講演会等を通して、進路実現の意識を高める。 ・国公立大学受験に対応した進路指導を行う。	・進路希望調査で国公立大学を第１志望とする生徒の割合を80%以上とする。	□４年生78.1%、５年生79.5%、６年生77.1%、全体では78.2%となった。	３	３	低学年には国公立大進学のための共通テスト受験を、面談や学年集会等で意識づける。各教科でも低学年時からの対策指導を行う。					
						・進路希望調査で難関国立大学を第１志望とする生徒の割合を10%以上とする。	□医歯薬希望を含め、６年生37名（８月現在）で19.2%が志望している。	３	４	志望はしていても学力が伴わない生徒が多数。教科学力向上を目指し、難関大受験を意識した学習計画を立てて取り組ませる。					
						・共通テストを受験する生徒の割合を95%以上とする。	□共通テスト出願者は182名／189名で、96.3%となった。	５	５	達成した。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山高等　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	中高の系統的な学習活動を通して、キャリア形成に向け、主体的に歩む生徒を育てる。 【確かな学力】		継続	高い志を持って主体的に学びに向かい、時代の変化に対応できる生徒	・細やかな教科指導と個人面談を通して、共通テストに出題される6教科8科目の学習を継続させる。	・国公立大学合格を90名以上とする。（延べ数、過年度生含む）	□6年生国公立大希望者135名 国公立大学総合型及び学校推薦入試出願予定者33名（９月現在）	３	３	希望者・推薦出願者ともに減少傾向が見られる。一般入試の対策を進め、面談で適切な受験先の指導を行う。					
					・難関国公立大学志望の生徒に対する学力向上支援を低学年から計画し実践していく。	・難関大学合格を5名以上、地元国公立大学合格を40名以上とする。（延べ数、過年度生含む）	□医歯薬を含め高３生8月模試での難関大C判定以上5名（D判定8名）、広島大13名志望C判定以上2名、岡山大28名志望C判定以上1名、県内公立大18名志望C判定以上８名	３	２	前年度までと比較して全体的に学力低下の傾向が見られる。学力を向上させるとともに、データ分析をもとに全国的な受験動向を把握する。					
	中高の学校生活の中で共に成長する経験を通して、自他を尊重し、他者と協力できる生徒を育てる。 【豊かな心】 【健やかな体】		継続	社会の形成者として知徳体の基盤となる道徳性を備えた生徒	・生徒の自己分析を促したり、ネットリテラシーを育んだりするような講演会を依頼し、全校生徒に取組を行う。	・自己肯定感や、ネットリテラシーに関わるアンケート項目に対する生徒の肯定的回答の割合を80%以上を維持する。	□情報モラルは全学年で肯定的回答が9割を超え、目標の80%以上を大幅に達成している。	４	４	「よく当てはまる」の割合は学年が上がるにつれて微減傾向にある。今後は単にルールを守るだけでなく、高校生自身がトラブル事例を考え、望ましい活用法を選択できるよう、集会や通信を通じて発信する。					
			継続	部活動や学校行事、生徒会行事に主体的に取組む生徒	・一樹祭等を通じて生徒の主体的、自治的活動を促進する。	・「本校の学校行事は、生徒の自主的、自治的活動になっている」という項目に対し、肯定的に回答する生徒を80%以上を維持する。	□行事の肯定回答は全学年で９割を超え目標達成している。	４	４	今後は学校行事の「よく」の微減傾向を受け、生徒が主体的に企画・運営に深く関われる自治的活動への支援をさらに強め、生徒と相談しながら進めていく。					
					・各部活動が自らの活動を発表したり、学校行事等で活躍できたりする場を設ける。	・部活動加入率を80%以上を維持し、「部活動から充実感や達成感を得ている」と回答する生徒を部活動加入者の80%以上とする。	□部活動の肯定回答は全学年で９割を超え目標達成している。	４	４	満足度は全学年で８割を超え目標達成も、高２で一時的に低下。今後は個々の目標設定を促す面談の実施するなど、さらなる充実感の向上を図る。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　福山高等　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	地元企業と連携した探究学習を通して、地域を知り、地域課題解決に取組む意欲と態度を備えた生徒	・グローカル人材育成事業により、高校生が担当する企業に対し、課題解決に向けた成果物を作成する。	・「地域の企業や課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して対象の4年生の学校評価アンケートで肯定率を65%以上とする。	□「地域探究」は、全学年を通して71.5%、企業研究に取り組んでいる4年生で肯定率は72.4%であった。	4	4	引き続きコーディネーターや企業と連携を図り、生徒が主体的に課題解決に取り組めるようにする。					
				ユネスコスクールとして、国際交流や国際課題に挑戦する意欲と態度を備えた生徒	・海外研修や修学旅行を通して国際課題解決に向けたレポートの作成・発表を行い、「夢プロ」では国際課題に関するプログラムに積極的に参加する。	・「国際課題に関して以前より興味関心を持つようになった」に関して5年生を対象として学校評価アンケートで肯定率を65%以上とする。	□肯定率は、全学年を通して73.3%であり修学旅行や国際課題に取り組んでいる５年生の肯定率は72.6%となっている。	4	4	学年での「夢プロ」の充実や、修学旅行を通して異文化を体験する。また、校内で国際交流を共有できる場を設け、肯定率の上昇につなげていく。					
	国際課題、地域課題について探究し、よりよい価値の創造に向け努力し、多様性を認め合い協働する生徒を育てる。【持続可能な社会の創り手】		継続	旺盛な探究心、課題の解決に向け粘り強く挑戦する学びを活かしたライフプランを設定し、よりよい在り方生き方を考える生徒	・「総合的な探究の時間」で行われる「グローカル人材育成事業」や「夢プロ」、その他の様々な教科から現代社会の課題を学び、その上で自身の在り方や生き方を考察させる。	・「社会や身の回りの様々な今日的な諸課題に関して以前より興味関心を持つようになった」という項目で学校評価アンケート全学年を対象として肯定率を80%以上とする。	□全学年を通しての肯定率は80.9%であった。各学年別では4年生が74.1%、5年生が79.1%、6年生が89.2%となっている。	4	4	今後の4年生校内発表や課題への取り組み、5年生修学旅行後の振り返りや夢プロなど発表や体験を通してさらに意欲を引き出す。					
	本校の教育実践を積極的に情報発信する。【開かれた学校】		継続	様々な機会と手段を有効活用し、本校の取組を校内外に広く発信する。	・中学校への学校訪問や訪問受入等による連携を積極的に行い、意欲ある本校受検者の定着と増加につなげる。	・オープンスクールへの参加者２３０人以上、最終の本校受検倍率1倍以上とする。	□オープンスクールの参加は２７９名（昨年２８７名）と目標値を上回ったが、昨年度比2.8%減少した。（保護者を含めると４４４名（昨年４７５名）、6.5%減少）	4	4	今年度も午前午後の２部構成で実施した。市内の中学３年生の生徒減と猛暑で体調不良で欠席した生徒が９名いたことも影響があるが、内容の改善を図り関係各所と連携を進め、参加者の維持と広報活動を継続する。					
					・ＨＰやブログを頻繁に更新し、持続的で魅力ある情報を保護者、地域に発信する。	・ホームページの月別更新回数を８回以上とする。	□ー昨年からHPをリニューアルしている。更新回数は月平均23.0回と目標を上回っている。	4	4	・HP外部受託の予算は獲得できていない。本校教育活動の情報と生徒の活躍を継続して、学校内外にリアルタイムに配信する。					

Ⅲ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　福山中・高等　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
	働き方改革に取組み、教職員の健康増進と教育の質の向上を図り、教育公務員としての自覚と使命感を持つ。【信頼される学校】		継続	教職員の超過勤務時間削減	・週1回の定時退校日と月1回の一斉退校日を徹底するとともに、現行の業務内容について点検、見直しを行い、業務改善を推進する。	・1か月の時間外労働80時間を超える職員を減少させ、月45時間以内の人数を増加させる。	□月1回の一斉退校日を徹底することはできた。働き方改革を進め45時間以内の職員数は昨年度より延べ28名増加した。しかし甲子園出場もあり80時間を超える職員は延べ14名増加した。	３	３	保護者対応は勤務時間内で行うことをPTAへ協力をお願いし、勤務時間外は留守電対応を徹底していく。土日の部活動指導は顧問間で調整して負担が偏らないように配慮していく。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80％以上100％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60％以上80％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40％以上60％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40％未満の達成度	目標を達成できなかった。